

## 1-② 堺観光周遊バス助成制度（観光振興団体事業補助）

---

（司会）

それではこれから約50分間、検討委員の先生方と市の職員の方との質疑、あるいは意見交換を行いたいと思います。まず質問、あるいは御意見のある委員の方からまず何かありましたらどうぞ。

（有田委員）

すいません、まず最初伺いたいんですが、論点は効果的なプロモーションのあり方ですよね。その中であえてこのバス助成制度をここに検討するように取り上げられた意図、ほかにもたくさんプロモーションやっつけてらっしゃったりすると思うんですが、その狙いみたいなことを教えていただきたいことと、数値的なことで、42ページに観光消費額っていうのはあるんですが、堺全体として観光収入総額っていうのはお幾らぐらいおありになるのかっていうことと、その下の助成制度適用分っていうところの観光消費額がありますけれども、このバス助成以外の観光客の方の消費っていうのはどれぐらいあるのか。というのは、観光バスの23年度で見ると、789万人来られててもバス利用者は1万2,000人、1.4%ぐらいしかないんですよね、観光客が。そこのところの消費額だけが伸びてますよって言われて、この事業だけを点で見るとはなくて、ほかの公共機関やマイカーで来られている全体の方たちを通して観光収入がどう変化しているかっていうことを見ないと、この事業が効果的かどうかっていうことは判断しにくいと思いますので、その点を教えていただきたい。

それから41ページのその他、国内・国外というところが数字が増えてますが、中国、四国、九州と書いてあって、これは東北になるのか、それとも何が38%って、21%から38%増えているところをもっと分析しないとイケないのに、そこが出ていないので、そこをちゃんと教えていただきたいというのに質問です。お願いします。

（司会）

お願いします。

（所管課）

まず、この論点と、このバス助成制度の問題でございますけども、この誘客プロモーション全体の中で、このバス助成制度の最も中心でありますとか主たるものということではございませんで、委員御指摘のとおり、堺市の中ではもっと全体的な誘客のプロモーション、個人向けのプロモーションを実施をしておるということでございます。ただ、我々この平成18年度から積極的にこういった誘客の事業を実施してきた中で、一つは非常に具体的に事業の成果も、この事業を実施をして、その結果としてこういった形で誘客も増えてきたということが具体的な数値でしっかり捉えていける事業ということで、この事業、バス助成制度をお示ししております。

あとの委員の御質問にも関連するわけですがけれども、今、資料でお示ししてありますように、38ページのところでは、堺市のビジター数のこの平成17年度からのこの推移をお示ししております、こちらのほうは直近では789万人ということで、17年度は463万人ということで、非常にこのバス助成制度と比べても非常に桁の全然違う大きな数字になってございます。こちらのほうのビジター数の把握の仕方といいますのが、どちらかというところのバス助成制度というのは非常に1件1件、我々が誘致をしてきた実数のしっかりしたリアルな数字の積み上

げでございます。これ以外に、実際には堺にバス旅行に来られている件数というのは、実はもっと多くございまして、この協会が直接誘致をしたり、直接受け入れのオペレーションをした、はっきりとした数字ということでございますので、それ以外にもバス旅行の件数というのは非常にあるのだと思います。この700万人、800万人近い数字といたしますのは、私ども堺市だけの方法でもございませぬけど、非常にマクロな数字の捉え方をしております、公共交通機関で年間利用されて、年間市外から堺に入って来られた方の数、そのうち実際に定期なんかで利用されて、日常的に通勤、通学で来られてるような方の数字はわかりますので、そういった方の数字を除き、実際に主要な駅なんかでサンプリングの調査をしまして、堺に来られた目的、行き先、そういったものもお聞きして、旅行者の方の数字の割合が幾らかというようなそうしたパラメータを調査で得まして、その数字によって非常にマクロなとり方でやっておるといのが、こういった700万人という数字でございますので、ちょっとこの700万人と、この委員お指摘のこの2万人というのが余にも離れてるといのは確かにそういうものなんですけども、ちょっと数字の捉え方がかなり違うものなので、700分の2という、そういう意味合いではないということでございます。

それと、経済効果の面で言いますと、この700万人のビジター数を積算するときにはいろんなサンプル調査をやってございまして、実際に日帰りで堺市内に来られた方は1人当たり大体1日4,800円の消費をされてございます。宿泊された場合は、1日当たり約3万7,000円の消費をされておられます。今この789万人に対しまして、ほぼかなりの割合が日帰りになってございますので、780万人掛ける大体4,800円というような形が直接のざっくりとした数字としてはそういうふうな消費があるという形では把握をしております。以上でございます。

(有田委員)

その他のところのグラフ。

(所管課)

すいません。まず、そのうち、日本国外からが20件ございます。ちょっと割合ですいません、申し上げられませぬですいません。20件ございますので、全体の371分の20が日本国外ということでございます。その20件以外を除きまして、あと123件ですけど、かなりもう日本国内、各都道府県ばらばらにまたがっております、1件とか2件の府県というのが、都道府県というのがたくさんありまして、それがすいませんけどもその他という形になっておりますので、当初はぎゅっと大阪府内であるとか隣接の兵庫県とか京都府内、それもしかも大阪に比較的近いところから来られておったのが全国的にざっと薄く広がりを見てきたと、そういうふうには理解をしております。

(有田委員)

今のお話だと、観光消費額って、バス誘致の人が1人当たり4,689円で、バスを利用しない観光客のほうが消費額1人当たり高いですね。だからバス利用が経済効果があるとは言えないですね。

(所管課)

1人当たりの消費額は同じパラメータを使ってございまして、実は堺市内発の方が単価が1,900円ぐらいになっておりますので、実はこのバス助成だけで幾ら使いましたと個別の数字が

とれておりませんので、経済波及効果のすいません、パラメータも全く同じパラメータを使っております。

(有田委員)

一番冒頭の質問、全体の事業費はここに支出のほう書いてありますが、観光収入として堺市はどれだけありますかという、総体を教えてください。

(所管課)

すいません、先ほどの経済的な効果は大体700万人に対して、1人当たり4,800円、あるいは宿泊の場合は3万7,000円ということなのですが、それに伴って、市側に例えば税収で幾ら入ってきてるとかというのは、すいませんけど今把握はできておりません。

(有田委員)

把握できなかったらプロモーションってできないんじゃないですか。観光政策を打ち出すためには収入が幾らでって。しかも観光目標人数って1,400万人って書いてらっしゃいますけど、じゃあ幾ら収入をそのために増やしていくんだってということが前提にないと、支出においてつくられても収支バランスが悪いんじゃないか。っていうかできないんじゃないんですか、普通。こういうパンフレットをつくったって投資効果が幾らあるかっていうことをおやりにならないとできないと思うんですけどね。

(所管課)

もちろん今すいません、789万に対する市内での経済波及効果の数字をすいません、ちょっと持っておりませんので御説明できておりませんが、それに伴って、当然確実に市内では、その税収というの具体的数字として今申し上げられませんが上がっているというのは我々の認識ではございます。

(吉田委員)

私、堺市の職員じゃないんですけど、今の質問に対してちょっと補足説明しとかんとミスリードするかなと思うので、補足説明させてもらいたいですけど、42ページの経済効果のこの表ありますが、ここで堺市さんが御説明すべきなのは、まず堺市として、歳出として約1,200万円ぐらいの事業費使っていると。それによって、それを使ってお客さん、バス旅行者が来られて、堺市で観光消費を5,700万ぐらいされてると。5,700万されて、そのうち一部は堺市以外にその消費に対して供給が堺市でする部分とほかの地域からの移入でする部分があって、5,700万よりちょっと下がって4,600万、堺市でその消費に対して財を供給してるっていう、そういう経済効果がありますよというのを言った上で、そういうふうに経済が回ることによって堺市内で結局どれだけの所得を生み出したかっていうのは2,300万ですよ。堺市さんがされてるのは、1,200万円の事業費を使って、堺市に2,300万の所得を生み出してっていう事業なわけですよ。それを説明しないと、何も御理解いただけないと思うので、それはちょっとそういうふうに説明されたほうがいいと思います。

(所管課)

今、吉田先生のおっしゃっていただいたことで、私すいません、御説明不足でしたけども、それを申しますと、ツアー1件当たり3万円を上限に助成をしておりますので、それによる観光

消費額は1件当たりの旅行人数というのはまちまちですが、平均しまして大体30人ぐらいという形でいきますとほぼ15万円ぐらいになってございます。ツアー1件当たりで平均しますと。それによりまして堺市の中で生まれてる生産誘発額は12万円と。3万円に対してそれだけの効果を生んでおるということでございます。

(司会)

どうぞ、はい。

(丸岡委員)

すいません、ちょっと単純な質問なんですけど、今1,200万ほどお使いということですが、この1,200万を使ったから観光客が増えて、バス旅行も増えたというのはどのようなところから言えるんでしょうか。

(所管課)

もちろんバス助成制度がなくても、堺に旅行来ていただけるというのは当然あるかと思えますけども、ここ18年から実施の数字を見ていただいてもわかりますように、資料のほうで見ていただきますと、この実績のところを見ていただきますと、39ページでございますけども、やはり18年度は助成件数も75件で、実際に受け入れのいろんなオペレーションやった件数も75件でございますので、やっぱり当初はこの助成制度がやはり有効に効いて、堺にツアーを組んでいただいたということでございます。これは明らかにやはりこの助成制度が大きな効果を上げていると思います。ただそれだけで、助成制度だけでは丸岡さんがおっしゃるように、堺にはずっと続けて来ていただけませんので、それに合わせて、当初はその助成制度を何とかフックにしながらか引張ってきておったわけですけども、並行して堺の観光魅力も高めていくことで、この助成制度を使わなくても実際に来ていただけるようになってきているというのがこの24年度696件と371件でございますので、必ずしも現在はこの助成制度だけが効いて、堺にお越しいただいているというわけではございませんけども、一定この371件についてはこの助成制度のインセンティブというのは働いておるとは思っております。

(丸岡委員)

はい、ありがとうございます。当初は確かによく効いたんだと思うんですけど、今おっしゃるようにほかのいろんな魅力とか皆さんの営業努力とかもあって最近が増えてきていると思うんですけど、これを減らしたからといって、じゃあ減るのかどうか、その辺の検証とかされるといかがかと思うんですが、どうでしょうか。

(所管課)

確かにこの今の時点でバス助成をやめたら、この371件がゼロになってしまうのか、あるいは実はなくても来るよというのか、そこはちょっとなかなか今定量的には御説明は申し上げないですけども、ただこの観光誘客というのはやはり皆さんどこに旅行行くかというのは幾つもの選択肢の中から場所を選ばれるという中で、当然堺の周りには京都であったり奈良であったり神戸であったり、もちろん大阪も含めた非常に強力なライバルがいて、それに比べると堺というのはまだまだ観光地としての知名度も魅力度も低い中で、何とかその中で一定成果を上げていこうということでは、我々この誘客プロモーションの一つの売りとしてこの助成制度というのは今後も、今の段階では必要だというふうには考えております。

(丸岡委員)

わかりました。

(司会)

あと、御質問とかはございませんですか。

はい、どうぞ。

(森本委員)

僕も丸岡先生と同じような考えで、18年の導入当時はすごい効果があったと思うんです。ここへきて、だんだんいろいろな宣伝効果が進んできたから、バスの助成制度なしでも来てくれる人が増えているという指標なんかでしたら、その解釈どうするかわかりませんが、そうだとすれば一度このバスの助成制度をやめるという前提で考えてみるということもあるわけなんです。それと、堺観光コンベンション協会の中にプロモーションというグループが組織されているということですから、その中で魅力ある堺に観光客を呼ぶためのアイデアですね、商品だとかそういうふうなやつがどういうアイデアが出てきているのか、ちょっとそのあたりをお聞きしたいと思います。

(所管課)

堺観光コンベンション協会プロモーショングループ萩野と申します。よろしくお願ひ申し上げます。今、委員の先生方の御質問ですけれども、私どもではやはり最近の旅行者のニーズの調査をしているんですけれども、そちらはやはりかなり変わってきていると。昔のいわゆる旅行スタイルですけれども、こちらが昔はアンケート結果をみてますと、効率よくいろんなところ、一回の旅行で訪問したいというところから、今は1カ所や2カ所、こういったところにのんびり滞在をしたいというところに変わっている。これが一つ。

二つ目といたしましては、旅行先ではやはり、たまに行ったんだから最高級の食事をしたいというのが過去で、今は、やはり地域のほうで現地の方がふだん利用するレストランとか食べられるような物、こういった物を食べたいという傾向が出てます。

それからあと三つ目としましては、旅行先では同行者の方と楽しく過ごすということが最優先というのが過去でしたけれども、現在では、旅行先では現地の方と触れ合って体験したりといったことを優先したいというような傾向がアンケートから出ています。こういったところを踏まえた中で、堺ならではの魅力ある商品、こういったものを今実は商品化もしておりますし、これからも地元の方と共同で開発をしていきたいということで考えています。

それからあともう一つは、料理に話が出ましたけれども、選定理由ですけれどもやはり地場産、こういったものだから選びましたと。それからあとお土産なんかは値段とか値ごろっていうより、地場産品っていうところを踏まえた中での選定、こういったものがやはりトレンドとして出てくるということがありますので、こういったアンケート、御意見踏まえた中で、地元の方という共同で開発をするのが集客への近道ということで、私どもとしては考えて行動しております。

以上です。

(司会)

ありがとうございます。

まだございますか。はい、どうぞ。

(増田委員)

検討委員の増田からちょっと質問させていただきます。

先ほど堺を観光地にするっていうのはやっぱりリピーターに来ていただくということが一番重要かと思うんです。これは一遍来てしまったら、もうあそこ行ったわというんじゃないくて、いろいろと観光施設と協力して、新しいイベントとか今年はこれするとかあれするとかいうのをつくってもらうとか、他方いつ行っても変わらない施設、歴史にふれられるという2本立てみたいなのが必要かと思うんですけども、それをどう考えてらっしゃるのか。

2点目に、先ほどの委員説明していただいたその方の発言から言うと、京都、奈良ライバルとおっしゃってますけど、確かに近郊から来ていただいているのであれば京都、奈良はライバルだと思うんですけど、例えば中国とか韓国とか、そういう外国から来てツアーで目的地になることは少ないのかもしれないんですけども、全部組み込んでもらうということであれば、堺を通ってもらうということも一つ重要であると思うので、このバス観光とどういう関係があるかはちょっと別として、ライバル視せずに協力して、なぜ京都、奈良にたくさんいるのか、たくさん来るのかというのは歴史が古いということ以外に何かあるのかとか、もうちょっと研究するとか、そこに京都、奈良の旅行を考えているところに組み込みを考えているとかっていうプロモーションの仕方として何か考えてらっしゃることがあるんでしょうか。その質問です。

(所管課)

まず、リピーターというのはやっぱり非常に重要な観点だと思います。我々まずこのリピーター確保をするということでアンケートなんかを見ますと、やはり今回のこのバス助成の中でも皆さん書いていただいておりますのが、大阪府内とか近傍から来られた方がこんなに身近なところでこういった歴史も残り、昔の風情が中世の面影の残る寺社もある。本当にこんなに近場にこういう歴史を感じるいいところがあったんだなど。こういうところには二度、三度と足を運んでみたいと。そういったアンケートなんかでも答えをたくさん見ます。こういった大阪府内でありましてとか比較的近い府県の方からこういう形、二度、三度やっぱり足を運んでいただくというのが非常にまずは重要かなと思っております。かなり遠方から同じところに目的地に何度も足を運ぶというのはやっぱり非常にハードルの高い部分があるかと思っておりますので、まずは近場の皆さんに堺の魅力を何度も楽しんでいただくと。そういう意味で、例えば寺社を公開するにしてもこういった堺の文化財特別公開といった事業をやっております、年2回公開をしておるんですけども、テーマをいろんな形に変えながら、同じ寺社でも違う楽しみ方をしていただくような、例えば今年は千利休をテーマに春と秋の特別公開をしておりますけれども、そういった取り組みを行っております。そういった形でリピーターをできるだけ誘致をしていこうということでございます。

また、近隣の京都でありますとか神戸、あるいは大阪なんかとは、先生が先ほど海外からということでインバウンドの事象をおっしゃっていただきましたけども、共同で海外の誘客のプロモーションなんかも実施をしておりますし、泉州の9市4町とも一緒に共同で誘客のプロモーションもしておりますので、もちろんライバルではありますけども連携をして一つの旅行コースを造成することで誘客を図っていくと。そういった取り組みを行っております。

以上でございます。

(司会)

ありがとうございます。かなり一通り意見が出て、特に市民の審査員の方はこの議論の中で一体何をポイントに話したらいいんかというところがあると思いますので、ちょっと私なりに整理させていただきますと、この論点であるように観光集客の推進ということなんで、観光客がたくさん来るということはいいことだというのはまず大前提としてあるんだと思います。そのためにどういうやり方が一番効果的なのかと。お金の使い方として何が一番効果的なのかというのが今議論されているところで、考え方としたら御指摘もあったようにリピーターを増やすとか、要は堺の観光魅力、それを高めるんだと。いろんなイベントをしたりとか歴史なんかを発掘したりとか、要は補助金なくても堺に来たいというものがあるから行きたいんだと。それが本来の観光の姿だと思うんですけども、堺の観光資源を磨くことによって誘客を増やすというやり方もあるのと、この事業というのはそうではなくてお金を出すと。バスの代金を半額にするという補助金を配ることで安くすることで来てもらう、そのためにお金を使うんだというのはこれは性質の違うもんだらうという、そういう論点の対立があるんだらうと思うんです。今の御議論の中で、当初はこういうお金出して観光客を引っ張ってくるということが必要だったんだと。ただそれと合わせて観光の魅力づくりもやっていますということなただけけれども、今のこの時点でかなり軌道に乗ったところで、本来のあり方である観光魅力のほうにお金をシフトするなりするそういう使い方があるんじゃないかという、そういう問題提起がなされているのかなと、私はちょっと理解しました。

特に、36ページの21のほかの政令市でどうかというところを見ると、ほとんどのところがこの補助事業というのはやってないですね。もう観光魅力だけで勝負しているところで、そろそろ堺もそれ1本でいったらどうだと、そういう問題提起があるんだらうと思います。ただおっしゃるように、今はまだこれ引いちゃうとまた元に戻ってしまうと、それだけ観光魅力が高まってないんだというふうなそういう御判断なのかと思いますけれども、じゃあ本当にそうなのかということでデータをちゃんと分析しないといけないんじゃないですかということで、この42ページの経済効果とかいろんな数字の読み方について議論があったのかなと。その中で今言ったような問題、本当にこれ引いちゃうと、観光客また伸びてるところが下がってしまうのがそこら辺のところをどう考えるのかというのは、今御指摘が出てきたところではないかなと、そんなふうにならうとちょっと議論を整理したらわかりやすいのかなと思うんですけども、そんなこととの関連でもしも何かあれば。

(所管課)

データのところで申しますと、もともとこの大阪府内、あるいは周辺の自治体から主にたくさん来ていただいて、中高年齢層が7割とか8割を占めるという市場に対して今まで取り組んできたわけですが、やはり今、司会の先生がおっしゃっていただいたように、一定成果は上がってきておりますけれども、今まで我々が積極的に誘致を図ってきたエリアからというのはある程度何回か、そう何回も何回もリピーター我々も期待するわけですが、なかなか獲得しづらいということで、まだなかなか数字にはあらわれてはきておりませんが、やっぱり徐々に今まで誘致を図ってきたエリアに対しての優位性といいますか、誘客力というのは徐々に我々はこの仕事をやっていく中で厳しくはなっているのかなと思っておりますので、まだまだ本来の基礎的な魅力の部分というのは高めていくという努力はやりながらも、こういったインセンティブな制度を合わせて実施することで誘致を図っていく。まだまだそういう段階じゃないんだと。そういう状況でいったらまだまだそういう段階じゃないかなというふうには考えております。

(有田委員)

私、先ほど41ページのその他をちょっとあえてお伺いしたのは、例えば関西空港の人たちの利用をどうするか。このバス助成制度を活用するのであれば、関西空港からトランジットの人を堺見学に呼ぶための利用にするのであればおもしろいかなっていうふうに思うんですね。関空ができる前に、私、堺市の国際化の事業をやったときに、通過にならないためにどうしたらいいかというのを随分議論されてきたと思いますので、そういうようなところが一つと。

新しいこととして、今、大阪府や大阪府が経済が一緒になって、観光振興で大阪観光局という一つのものでできて、これから積極的にやっていかれると思うんですが、そういうふうな動きの中で堺市さんはどういうふうに一体化されて、泉州9市ではやってらっしゃるといったことだったんですが、そういうふうな大阪府全体として取り組む中で一緒になって、先ほど増田さんがおっしゃったみたいにアジアゲートウェイとして、まさに堺がこの入り口になるのではないかなと思うので、そういうプロモーションの展開にもぜひ参画していかれたらいいのではないかなと思うことを思います。

それから堺をアピールするために、堺にはアピールコミッショナーみたいなのはあるんですか。

(所管課)

はい、ございます。

(有田委員)

そうですね。ぜひああいうようなので堺をロケ地に使ってもらって、すばらしい町並みだとかいろんな古い資財とか文化を国内外に発信していかれるのも一つかなと思いました。

(司会)

はい、ありがとうございました。今のはバスに対する補助金という以外にもお金の使い道として、あるいは仕事の仕方としてもっといろいろあるんじゃないかと具体的な御提案、関空から来る、このところに注目して、そこに資源を集中しろと。お金を集中しろというようなことであるとか、大阪府と大阪府がやってるプロモーション事業と一緒に何かもっとやれとか、あるいは映画のロケ地を誘致するとかそういういろんなやり方がある中で、この事業が今で一番効率性のいい事業なのかどうかというのを検証したらどうかと。そういう御提言だろうと思います。もしもそこらで、先ほどの含めて、要はまだ堺も発展途上だからまだまだ補助金要るんですという、そういう御説明だったんですけども、その発展途上に補助金が要るにしても、それが本当にバスがそれが一番最適なものなのかというのはそうなのですかという、その最初の御疑問もその中にありますので、それも含めてお答えいただければと思います。

(所管課)

そうですね、バス助成制度が観光の中に占める割合というのは決して高いものではございませんので、全体的な観光魅力を高める。あるいは先ほど来御指摘いただいているような、例えば大阪観光局との連携であったり周辺の京都や神戸といった政令市との連携であったり、泉州各種の連携であったり、とりわけ泉州の9市4町との連携ということであれば、関西国際空港からのインバウンドということが当然ターゲットになってまいりますので、そういった取り組みはこれからも充実をしていきたいというふうには思っております。

また、フィルムコミッションの関係でいいますと、昨年度からフィルムコミッションの事業を立ち上げておりまして、ロケ地ではございませんけど、今年は12月に「利休にたずねよ」と



いう映画が上映をされるということで、我々、千利休をテーマに堺も積極的に情報発信、誘客をしていこうということで今取り組みをしておりますので、先ほど御説明しました文化財特別公開で利休にテーマを当てておりますし、ちょうどたまたま今日から阪神高速さんと一緒に共同のキャンペーン、これは「利休が生まれたまち堺へ行こう」と、こういった取り組みもやっておりますので、フィルムコミッション事業と合わせて都市イメージを発信していくと、そういった事業を積極的にやっていきたいというふうに考えております。

(吉田委員)

質問というよりも一つ補足説明と、もう一つが要望で、2点ばかりなるべく手短かに言うのでちょっとお聞きいただきたいんですけど。

ここのセッションと違って、午前中からのつながりでの話なんですけども、午前中、私が役所の仕事をというのは民間が担えないところ、マーケットが処理できないところを担いますよと申しあげましたが、まさしくこの事業とかの42ページにそれがあらわれてるところなんですけども、午前中の仕事であれば自転車を貸し出すことについて事業がペイするみたいな話だったんですけども、そういう観点からいくと、このバスに対して補助金出すというのはペイゼロというかお金を渡してるだけになるんですね。そやからペイっていう観点でいうと全くの赤字なんですけども、ただそういうふうに役所がすることによって、世の中のメカニズムを理解したら波及効果が生まれてくると。その波及効果が生まれてきて、結局堺市自体は1,200万円ほど使ってるけども、堺市全体としたら2,300万円ぐらいの所得を生み出す。そういうのを考えてやるのが役所の仕事ですよというところをちょっと午前中からのつながりでもっと補足で説明させていただきたいと思います。

さらに、今、堺市さんがやられてないのは、堺市全体で2,300万所得を生み出しても、ただそれは税収として月そこから何ぼ返ってくるのかと、そこは計算されてないようですけども、もし先ほどからもそういう質問を持っていったんですけど、そこまで計算されてたら、これだけの事業費使ってこういう経路をたどってこういうふうにして全体見れますよというのを、もっと説明力が高まるのでやっていただいたらどうかなというように思います。

次に、要望なんですけども、この事業を続けるかやめるかまだちょっとその判断がつかねるみたいのところ、続けていったほうが良いというようなお話でしたけど、それを調べるためにもせっかくアンケート調査なさってるわけですから、そこに設問としていろいろ入れていったらいいと思うんですよ。堺市に観光でリピートされる希望があるかどうかとか、補助金がなくなったら来られるつもりはなくなりますかとか、それから今、堺市としましたら、このバスを使って堺の情報を国民とか世界の方々に伝えるというようなお金の使い方してるけど、先ほど有田先生とかがおっしゃられた関空とかのところで情報を流すほうがより効果的やと思うのはどうかとかいろんな質問を入れて行って、そこからアンケートから出てきたデータを使って分析されたらいいと思うんですよ。そしたらこの事業を続けていったほうがいいのか、場合によったら一部関空とかでもプロモーションに予算を回したほうがいいのかとかある程度判断がついてくると思うので、このアンケート調査を有効活用をさらにされるといいかなというふうに思います。

(司会)

はい、ありがとうございました。

あと、何かございますか。

確かにこの事業をどう見るかというのが非常に難しい。数字の見方も吉田委員のほうから補足

説明があって、私も言われると見方がわかったんですけど、この42ページの一番下の2万3,549っていうのはこれが堺で生まれた所得だと。堺の人たちがこれだけもうかるようになった。そういうことなんですね。ただ個人的に思いますのは、補助金、今2分の1出してるんですけど、2分の1出さなくても、例えばそれが4分の1とか1割の補助金でもひよっとしたらこれだけのものがあつたかもしれないということも考えると、あるいは極端なケースで補助金なくても結構来られたんじゃないかというようなことも考えると、こういうことも当然必要ですし、今、先生がおっしゃったようにアンケートで、本当にこれ補助金なかったら来なかったのかと。あるいはこのバスの補助金じゃなくて別のものに対してくれるんだつたら欲しかつたんだよと。何かいろいろな観光地のお寺なんかと何かイベントを組むときにですね、そのときのものを使いたいとか、いろいろもっとこうしてくれたらいいというふうなユーザーサイドのほうからのニーズもあるんじゃないかと思います。そのことも含めて、どうすれば堺にたくさんの方が来てもらえるのかと。そのためのお金の使い方としたら何か有効なのかと。本当は観光事業をたくさんやっておられるので、予算はもっとたくさんあるのかもわからないんで、このお金だけに目がっちゃうというのはちょっと視野が狭くなってるのかもわかりませんが、とりあえず今のこの事業をどうするかという話ですので、この事業の使い方として、これが今のところ一番いいんだというようなところを、またちょっと市民の審査員の方に御意見伺うんですけども、いま一つ、本当にこれがベストかなというところがまだ我々は、少なくとも私自身はもやもやとしてますので、何かこうびしっと何か御説明いただければと思うんですけど。

(有田委員)

説明いただく前に、質問してもよろしいですか。質問なので、それに加えていただいて。

32ページに、堺市の宿泊者数がこの近隣の中では低いですよ。数を増やすだけじゃなくて、経済効果を上げるという意味では、宿泊してもらって夕食とか朝御飯を食べてもらって一泊二日コースとか長いほうがよりお金は消費されると思うんですが、分析としてね、宿泊が少ないのは一泊二日コースにならない日帰り周遊的な堺は観光になってしまっているのか、例えば温泉がないために宿泊を引き寄せる魅力がないのかとか、ホテル業界の課題があるのかとか、その辺の分析はどうでしょう。私はそういうほうが人数だけではなくて効果は上がるんじゃないかなと思うんですけども。

(所管課)

協会プロモーショングループ萩野です。今、いろいろ議論がある中でちょっと全般的なことを、ちょっと私実務担当してる中で、私のほうでちょっとお答えをしたいと思いますけども。

まず、点検シートのほうで、先ほども森課長のほうからもございましたけれども、一人頭、今コストとして1,200万をコストとして考えたときに、一人頭誘客で割ると約1,000円ということなので、コスト的には事業費的には非常に低コストというか効率のいい事業なのかなということは実感しています。それから1,200万というお話なんですけども、旅行会社なんかで例えばパンフレットつくってくださいということでお願いに行くと、大体200万、一つつくるのに100万、200万単位コストを要求されますので、そういったところから考えると誘客利用としては非常に効率のいいことかなということで私的には考えています。

それからあと、皆さん大前提として、まず旅行会社のカウンターへ行っていただきたいんですよ。堺のパンフレットってありますか。ないですよ。旅行会社のパンフレットに。例えば首都圏とかいろいろ全国からいうてもないと思うんですね。本来、例えば誘客してこようと思え

ばそういったことが必要なんですけども、まだまだそこまでいってない。魅力が発信できてない。旅行会社に取り上げられてない。というエリアということで私は考えています。そういったところからすると、まだまだプロモーション、知らない方に堺の魅力をお伝えしていくというフェーズなんかなというふうに思いますので、いろいろ議論、たればの話、この補助金がなかったら来てたのか来てないのかという議論はありますけども、まだまだ私の感覚的なことで申し上げると、これは宣伝していかないと、足をとめるとあつという間に来ないと、来ていただけないということになってくるのかなというふうに感じてます。ただそれと、お金の使い方というのはいろいろあるんでしょうけども、そういうことかなというふうに思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。

(司会)

あと、有田委員のほうから出た日帰りと宿泊、まずその全体の割合がどうなってるのか。

(所管課)

そうですね、このバス助成の中で先ほど言いましたように宿泊が伴っているのは6%だけでございますので、まだまだ割合は少ないということでございます。例えば遠方から来られてて宿泊されてても堺市内で宿泊をされずに、例えば近隣の奈良で宿泊をされて、その途中で堺も寄ってというそういうような形もございまして、堺市内での宿泊の割合はまだまだ低い。それはやはり堺に滞在できる時間が短いということにもやっぱり尽きると思います。まだまだ幾つもじっくりと時間をかけて楽しむ。あるいはそこにまた食の魅力なんかもあつて、夜ぜひとも堺でこういったものを食べてみたいと、そういうふうな魅力がどんどん備わつてきて観光資源も充実してくるとやはり宿泊ということにつながっていくと思うんですけども、まだまだそういったところは非常に弱いので、堺に立ち寄っても隣のところで宿泊をされるという、このバスの助成の制度をとつてもそういう状況にはなっております。

(司会)

はい、ありがとうございます。

このデータで見ますと、結構堺市内の方の利用も多いということですので、恐らく市民審査員の方で観光バスを借り上げて堺市内に何か観光旅行をしたりとか、多分この要件満たしたらこの補助金を使えるっていうことなんじゃないかと思うんですけども、町内会とかでそれぞれ結構あるのかなというのはそんな想像するんですけど、今回、そういうお立場、もしも御経験があればバスへの助成っていうのが有効なのかどうかというのは一定の御判断もできるかなと思います。

その分も含めて、今から15分か20分ですね、市民審査員の方から御質問があればお受けしたいと思います。今の話に限らなくて結構ですので、どのようなことでも結構ですので、御質問があればどうぞ。

(市民審査員)

新しい観光地の魅力として、百舌鳥・古市古墳群というのが堺市もやはりPRされているふう聞いておるんですけど、これは堺だけじゃなく、隣の藤井寺になるんですか、そういうところをどう考えておられるのか、何か世界遺産の登録を目指しておるというふうなものも聞いておりますし、仮にそういうことになれば、かなり大きな変化が起こるのかなというふうな感じはしております。事前にまだ世界遺産に指定されるということは大変なことだと思うんですけど

ど、観光地の魅力としてはかなりあるんじゃないかと思っております。

それからもう一つは、バスのことなんですけれど、バスの駐車場っていうのは堺市のこの観光地はある程度整っておるんかと。何台ぐらい、大型バスやったらとまれるんかとかいうようなことは、私は乗用車でこの妙国寺とか南宗寺とか行きますが、どうもバスが完全にとまれるような感じがしてないんですね。バスについてはその辺をちょっとお聞きしておきたいと思いません。

(所管課)

まず、世界遺産でございますけども、市民の方の御指摘のとおり、百舌鳥古墳群と藤井寺・羽曳野の古市古墳群と一緒に、今、世界遺産登録を目指しております。平成27年を目標にということで、今、鋭意努力をしております。もちろんこれは観光の目的ということではなくて、世界的な遺産を保全・保護していこうというスキームでございますけども、それによって世界遺産登録になることで国内外からたくさんのお客さんも起こしになるということは当然予想もされることでございますので、そういった皆さんに堺をしっかりと知っていただく。堺の魅力を感じていただくということは大事なということで、それは我々が観光面としてもしっかりとやっていきたいなと思っております。

次に、バスの駐車場も御指摘のとおりでございます。特にこの旧市街地というこの古くからの堺の中心部の部分について、大型バスの駐車場は1台もございませんでした。この近くでしたら大仙公園の駐車場、あるいは大浜のほうの大浜公園の駐車場しかございませんでしたので、今、宿院にあります旧の市立の堺病院の跡地のほうに大型観光バスの駐車場5台設けてございまして、そこに新たにまた文化観光拠点という施設をつくらうというふうに考えてございまして、そこで大型バスの駐車場と自家用車の駐車場も100台ぐらい整備をしまして、そこから町歩きでありますとか、午前中議論になりましたレンタサイクル、コミュニティサイクルなんか使って、この都市観光という、この町中の観光を楽しんでいただけるようなそういう拠点を駐車場も含めてつくっていききたいというふうに考えております。

以上でございます。

(司会)

よろしいでしょうか。

(市民審査員)

ちょっと聞きたいんですけど、我々の仕事はどっちならスーパーやけど、お客さん呼ぶにはチラシなんです。チラシには値段とかあんなんあるんですけど、それだけでは商売になりませんよね。そやからそれなりの魅力のある商品を我々が1品、2品って考えて、1品でもお客様に買ってもらえるように努力してます。その努力にはやっぱりいろいろな一人一人の努力があるんですけど、今聞いてたら、あんまり努力っていうんか、ただ写真撮ってやってるだけやから、現地に対しての魅力の、ポスターなりにもうちょっと考えて、県外から来てもらうのは見てたらちょっとしかないんで、県外のほうにもうちょっと力入れたアピールしていったほうがええんちゃうかなと思います。堺って大体もう知ってる人は小学校でも習ってるようなことばっかりやし、そここのところをちょっと考えてほしいと思います。

(所管課)

わかりました。大阪府内だけではなくて、より広域からも集客できるようにこれからも力を入

れていきたいと思っております。

(司会)

あと御質問。

(市民審査員)

先ほど言いはったみたいに、私らも同じですわ。広告入れるのは自分の力で入れてるんです。先ほど広告のことで言いはったけども、それをやめてしまうとあかんねやと。ただこの中で見てもね、データの中、私初めて見させてもらったんやけど、これ若い子誰も来てない。これ何で、古墳と墓ばかり。それとかもってね、若い子が増えるように、子どもができるように、私とこも娘おるけどちょっと困ってる。みんなそういう何かの波及効果、観光事業で先ほど大将言いはったんで。その目玉、私も作ります。広告作りまんねん。金いりまんねん。わしでも作りますわ。

もう一つ、先ほどから私言いました。役所根性をまるつきり出して、私らへま打ったら大将と一緒に、つぶれますねん。おたくら異動したらしまいですわ。その辺の物を言うてくれやんと、先ほどの広告の件、手を引いたら終わりでんねん。ちょっとおかし過ぎるわ。こういう機会を与えてくれはったということは非常に私も年ね、だからみんな疑問点があって、いろんなことを言うやろうと思うけど、みんな目の位置ちょっと違うと思います。えらいすんません。

(司会)

どうもありがとうございます。やはり行政の仕事っていうのは民間と違ってそういう厳しい競争とかですね、生産性とかそういうものにさらされませんので、ともすると本当に緊張感を持ってやらないとなかなか市民の方に納得いただけるような、そういう事業展開にならないということなんだろうと思いますけれども、今の御質問の中で、この42ページの上のグラフでも60代、70代でもう7割占めてくるというのは、御説明では要は観光資源が歴史のものだとかそういうものでお年寄りの方が多いんだということなんですが、観光を振興する集客をされる側として、お年寄りの方に何か的を絞ってその方を呼ぼうとしておられるのか、それとも何かこういう誰かこういう方に来てほしいというマーケティングのターゲットみたいなそんな考え方を持ってやっておられるのか、そこら辺を。民間企業だったら当然こういう人たちを誘致しよう。外国の方よりも、このくらいの所得の方とかこういう方とかいろいろ考えるんですよ。そこら辺の選択はいかがなんでしょうか。

(所管課)

まず、マーケットの見方ですけども、堺は観光に力を入れていくと。取り組み出したこの平成18年のこの段階で、やはり堺でまず一番何が知名度が高くて売れるかということになりますと、やはりこの中世のころからの歴史であったり百舌鳥古墳群であったり仁徳陵であったりと、こういったところをまず今ある資源を磨いていくと。それによって誘客を図っていくということがまず重要な取り組みというふうに考えておりましたので、そういった資源に対してはやはり高齢者の方が対象になってくるということでございます。ただ、今後ともこれが全てこういった歴史文化資源だけがいいのかということではありませんので、我々もやっぱり地域への経済波及効果とか町のにぎわいとかそんなことを考えますと、やっぱり若い世代を誘客していきけるようなそういった観光魅力づくりというのはこれからの課題だというふうには考えております。

(司会)

はい、どうぞ。

(有田委員)

修学旅行は来ないんですか。

(所管課)

今、後ろのプロモーショングループの萩野のところでは一生懸命修学旅行の誘致も今やっております。実際に徐々に誘致はできつつあります。

(司会)

あと、御意見等、御質問等ございますか。市民審査員の方。

私ちょっと、司会者がそんなことを言っているのかどうかですけど、歴史だとか仁徳陵だとかいうとお年寄りとは限らないだろうと思うんです。若い方でも関心持っている方って結構おられるので、そんなところも別に抜きに、歴史資源だからお年寄りだという、現実にお年寄りの方が多いいというのは事実なんですけども、そのことと要はマーケティング、どのように売り込むのかというのは全然別話ですから、お年寄りにターゲットを絞ってやるんだったらそれはそれで全然否定するものでもないんですけど、どうも余りきちっと市場調査とか、先ほどから市民の方からあるように、民間団体はその市場調査を誤っちゃうと商売としてビジネスって成り立たないんで、そこら辺のところはちょっと違うなというものをちょっと感じるんですけども、それは感想で恐縮ですけども。

まだ若干時間がありますけれども、っていうか今ちょっと私一方的に言い放して、もしも何かありましたら。

(所管課)

今、いろいろ御意見出てますけど、さっき私はプロモーショングループなんですけど、預かって人間なんですけど、役所の人間ではなくて民間から来てます。民間の感覚で今やらせていただいているということをまず申し上げたいと思います。

それでその中で、まずお年寄りが多いということなんですけど、これは結果論なんですよね。結果論でやはり堺におけるいわゆる観光素材というのが御年配の方が好まれるものがやはり多いというところがこの数字に出てくるということで、だから私もプロモーションの中でもあえて御年配の方のところに営業を行って行くわけではなくて、当然先ほどから議論がございます教育旅行、こういったところにも営業に行ってまして、実際ここ数カ月で3校ほど学校の皆さんにお越しいただいている。ただ、学校の皆さんが好まれるのは、さっきからお話ある歴史的なものではなくて、どっちかというところ例えば堺で申し上げますと大阪府立大学の植物工場だとかそういったものの先端のもの、こういったものをやはり見たいというニーズがありますんで、そういったところを新しい堺の魅力として我々も売り込んでおりますし、情報発信をしてというのが現状でございます。

それからあと、先ほどの表の中で助成金の話がございましたけれども、他市との比較表、ページで言うと36ページということなんですけど、こちらのほうも補足で申し上げておきますと、政令市という比較なんですけども、具体的に申し上げますと、例えば兵庫県は同じような助成金制度を持っています。なので、神戸市に行かれますとそういったものを受けれるということです。政令市としてはやってませんが、兵庫県のほうではバス1台当たり3万円という制度を持っ

てますので、この辺ちょっと取り違えのないように、政令市の比較ということでございます。それから、例えば近辺で言うと京都でも丹後ですね、京都市はやられてませんが、丹後のほうはこれはもうバス1台当たり3万円という補助金を持っている。出しているということがいいうことじゃなくて、さっきから申し上げているように、我々念頭に置いていますのは、いろんなエリアの中でのデスティネーションマネジメント、お客さんをどこに連れていくか、引っ張って来るかということで我々も営業をしております。その中で堺に来ていただくということや、さっきから申し上げているようにフェーズの中で言うと、まだまだ調子づいてきたというか、これから堺に観光振興していかないといけないところからいくと、ある程度そういった仕組み、援助の中でも、御支援の中でまだまだやらないといけない段階なのかなということで感じております。ただ申し上げているように、そういったことばかりやっていくのではなくて、これは観光部のほうか御説明ありましたように、そういった比率はどんどんどんどん落ちてますので、バス事業という中でいうと、それ以外の堺ファンがそういったことで最終100%助成金対象の皆様が100%だったものがどんどんそれがなくても来ていただけるよということがリピーターが定着ということで増えてきているのかなというふうに思っています。

私からは以上です。

(市民審査員)

すいません、ちょっとミーハー意見で申し訳ないんですけど、Jグリーン堺とかをまたつくりましたよね。そこに日本代表のサッカーチームとかがよく来てると思うんです。それに兼ねてツアーを組むとか、長居公園で試合もしますし、そういう場所をつくって若い人を呼ぶとか、あと、みなと堺グリーンひろばにも前、a-nationとか、そういうのも開いたと思うんですね。そういうので若い人呼んで、そのままやっぱり堺のホテルに泊まってもらうとか、そういうふうなことを堺市を中心に、旅行会社を中心じゃなしに、堺をまず中心にして何とか誘致できたらいいんじゃないかなと思うんですけど、その辺はどうなんでしょうか。

(所管課)

Jグリーンのことに限って申しますと、今、年間60万人来られています。観光ということと、近いカテゴリーですけどコンベンション誘致というのをやっておりまして、Jグリーンだけではございませんけれども、市内のいろんなスポーツ施設、とりわけこのJグリーンができて、スポーツ関係のコンベンション、大会というのが非常に多く開かれるようになってございます。これは子どもたちのスポーツ大会もありますし、大人の大会もございまして、それによって年間かなりの集客、実際にはそういったお客さんも大きな大会がございましたら数日間堺市内に宿泊されますので、ホテルでありますとか、観光と近い分野に経済効果を及ぼしておるという状況でございます。そういったところもスポーツコンベンションの誘致、あるいはそういったスポーツツーリズムといったようなもの、そういったものに対する取り組みというのもこれからの課題だというふうには考えております。

(司会)

よろしいですか。

有田委員。

(有田委員)

市民委員の方がなくて時間があるならばで結構です。

(司会)

もしも何かありましたら。

(有田委員)

拝見していて、堺には観光資源がすごくたくさんあるなと思うんですが、多分リピーターが来ないとか若い人が少ないっていう部分ではそちらの皆さんプロだと思うのでこんなことを言うのはあれなんですけど、見せ方の問題もあるのかなと思ひまして、百舌鳥古墳群って近く行っただけで木がうっそうと茂ってるだけで、あれはこういうふうにならば規模が大きかったり、歴史的なことがよくわかるんで、そうするともう市役所の展望台に上ってみるのが一番なんですかね。とって、最近事故もあるので気球がいいとか余りこういうことは勧められないんですが、何か見せ方の工夫であったりとか、さっき神社・仏閣よりも伝統産業のほうがっていうのもあるならば、伝統産業のところでももう少し体験学習ができる。実習ができるっていうのがおもしろいんじゃないかなと思うんですね。私、月の半分、東京に住んでるので、東京の近郊の川越であったりとか銚子とか日帰り旅行をするんですが、土日に行くときすごい人なんです。そしたらこの阪堺電鉄みたいな銚子電鉄たった2両しかないのが満員になって、パスポートっていうのもらえて、どこの駅でも乗りおりが自由で1日好きなように乗れる。ですと、いろんな観光資源に行けるっていうようなのもあるので、南海電車とそういうふうなことをコラボしてみるだとか、銚子だとヤマサ醤油で体験ができておしょうゆがプレゼントしてもらえたりとか、いろいろな何かインセンティブがあるんですね。いい資源があるのに、見せ方の工夫をぜひそちら皆さん専門家だということなので考えていただけたらおもしろいんじゃないか。この季節のここへ行きたいけど、冬の何とかもいい。京都でまずそうしてますよね。いかに冬の京都に来てもらうためっていう工夫とか着物を着て歩きましょうとか、いろんな工夫をしてリピーターを増やしていると思うので、片や何かそういう工夫をしていただけたらより増えるんじゃないかなと、素人意見ですが思います。

(所管課)

ネットで中継も録画もされますので宣伝をさせていただきますと、今、委員おっしゃいましたこの鉄道との連携ではこういった「堺・住吉まん福チケット」ということで1日乗り放題チケット、これは阪堺電車、南海電車、南海バスが組んでやってまして、そこにお寺さんであるとか飲食店なんかの割引も一緒になると。こういったものがありましたら、1日周遊のチケットであれば堺おもてなしチケットという阪堺線の割引のチケット、これも南海バスとつながっておりますけど、そういったものを一緒にやってございます。

また、刃物なんかは工房がなかなか小さいですので、一度にたくさんの方が入るといのは難しいですけども、堺市内のいろんな刃物工房さんなんか実際に鍛冶の現場を小学生に見せていただいたりとか、そういうふうな取り組みをずっと御協力もいただいております、こういったバスツアーの訪問先にもそういった刃物屋さんというのは実はたくさん挙がっております。

あとは仁徳陵、上から見ると、これは21階からですと、ほんのわずかに水面が見えるだけです、今、映像ですけども、バーチャル映像で実際に俯瞰をした状態ではどんなふうに見えるかとか、より高度な映像技術を使ったソフトなんかもつくっております、仁徳陵の前の堺



市博物館のほうで、来年春ぐらいから見えるようにはまずしたいなというふうに思っております。

(有田委員)

そこから上が見れるんですか。

(所管課)

いや、映像で見れるだけで。この上ですか。

(有田委員)

いえ、例えばね、函館行くと五稜郭のそばの1階がショッピングセンターとかそういうモールになっていて、上に博物館的なものがあるって、何階かまで上がると五稜郭が全貌できるんですよ。仁徳陵が見えるのはどの高さかっていう、いろんな制限もあると思うんですが、何か市役所から見れないのであれば工夫があってもいいかなと思いました。

(所管課)

必ずタワーの議論は出るんですけども、今の仁徳陵の近傍では世界遺産登録を進める中でちょっとそういった工作物はつくれないという状況にはございます。

(増田委員)

論点に即してというか、とっぴな意見かもしれないんですけど、歴史、特に戦国時代が好きな人は今たくさんいて、若い人にもたくさんいると思うんですけど、堺にいっぱい物語にも出てくるんだけど、じゃあそのような堺をどういうふうにして見に行ったらいいのかっていったら、何かどこへ行っても余りええ面影がないような気がして、イメージだけかもしれないんですけどね、そうなので、例えば日光江戸村みたいなのをつくれとまでは言わないけれども、ある一角の商店とかを全部その時代の建物にして、実際に店をしてとかいう、京都の市内でも一回やってはるところってあるんですけども、例えばそういうようなことをしてね、そうするとイメージできない人もそこに来たら中世の堺のお店の部分がこんなんやったとかいうので、若い子にみんな来てもらえるかなと。特に信長の先祖がそういう若い人が見てるような漫画とかにも堺が出てくる場面がいっぱいあるんだから、そういう同じような年のつくりにするのはテーマパークみたいになっちゃうんで無理かもしれないけども、それを見て、じゃあ本物見に行こう。千利休のこの遺跡見に行こうやっていうふうになって、足を延ばしてくれるとかっていうのもあるので、ちょっと今の文化財を前提に誘致をするっていう話ではないのかもしれないですけど、そういうこともあったらみんな若い子も来やすいんじゃないかなあとかいうふうなのをちょっと思ったんですけども。

(司会)

どうもありがとうございます。

そろそろ時間が来ておまして、特にもう一言ということがなければ、議論の論点の整理と確認をさせていただきたいと思っておりますけれども、事業の必要性ということについては今回の論点が観光集客の推進を図るための効果的な誘客ということで、この事業が何がしか少なくとも大きいのか小さいのかというのは議論があっても役に立っているということで、それをそういうふうに事業の必要性については特に大きな議論ではないんでしょうけれども、本当に今の時点で

必要なかどうかと。このバスへの補助金以外にもっとこうほかにお金を使ったらどうなのかというふうなところは議論になったのかなと思います。そのためには要はデータをきちんと分析するというのと、さらにそういった部分ではデータが不足してるのであればアンケートもちゃんととって検証したらどうかというふうな議論が出たんだろうと思います。ただ、これを全部否定するというのではなくて、当然今回これ以外にいろんないいやり方があるよということでたくさん具体的な提案が出ました。若い人を誘致するとか、京都なんかのほかの観光地と連携するとかリピーターを確保するとか海外から誘致するとか映画のロケとか産業観光、世界遺産、スポーツ観光、いろいろあって、こういったものについても既に一定の取り組みしておられるという、そういうお話があった中で、そういったものと、今回審査員の方に御審査いただくのは、その中の一つの事業としてのバス制度ということになっておりますので、そのほかのものもある中でこれも一緒にやったらまだまだ効果的だというふうな御判断になるのか、あるいはもうこのところで一度見直してはどうなのかというような御判断になるのかというふうなところが一つの論点になってるのかなと。その部分については、この場では客観的にはっきりとはまだわかんなくて、ちょっと意見がすれ違ってるかなというふうな私は印象を受けたところです。そこはいろんな考え方があると思いますし、審査員の方御自身がこのバスツアーなんかを仮に企画なんかをされるときに、こういうようなものがあつたらいいのかというようなことでも御判断いただけるかもわかりませんし、あるいは一人の納税者として、こんなことにお金を使ってるんだつたらもっと厳しく、要はニーズをつかんで事業を精査すべきだという御意見もあろうかと思えます。それはいろんなお考えの方がありますので、それぞれのお立場で今の議論、検討委員の議論を御参考にいただいて審査をしていただければと存じます。それでは、これから堺の観光周遊バス助成制度の御審査をしていただきます。事務局のほうからシートの記載についての説明をお願いします。

#### <審査シート記入方法説明及び審査シート記入>

(司会)

まだ少し時間ありますので引き続き書いていただいて結構ですが、書かれた方はちょっと集めさせていただいて集計作業に入りたいと思います。

まだ若干時間ありますので書いていただいたら結構です。大体の方は書いておられますので、審査結果の集計作業中にこの時間利用いたしまして、市民審査員の方から御質問というよりもむしろ御意見とか、あるいは御要望あれば、この場で。恐らくこの事業については、検討委員の方もいろんな具体的なこうしたらどうだああしたらどうだという前向きの御提案があつたんですけれども、そういったものも含めてもっと堺に観光客の方が来るためにはどうしたらいいのかというのはこのアイデアを含めて御意見頂戴できればと思うんですけれども、いかがでしょうか。

(市民審査員)

いつも大体こんなパンフレットみるんやけど、私もう67なんですよ。今ここにられる方なんかはまだ30なってないかな。40代でこういう重たいパンフレットいうたら、これ大分お金かかってるね。だから今先ほど、この回数券で小さいので割引もあるでとか、いろんな感じで言ってるけど、私ここ寄せてもらって初めて、大将と同じで、初めてこういうのがあつたんやなど。先ほど後ろにられる方が役所の方ではないんやと。その中で目線がやっぱりこれ京

都とか奈良とかあんな古い感じのパンフレットでものすごくお金がかかっていると思う。私らでも一生懸命に広告へは出さんといろんな検討するんですよ。今の割引とかいろんな感じのものとかいうのがみんなわかってないと思うわ。それで1日9時から5時まで、あるいは市民にややこしいこと言われて頭にきたなど。私らそんな日本語しゃべったらえらいことになる。仕事が前に進まへん。だから今言うてるみたいに、有田先生が東京で云々こういう努力したらどうやと、いろんなやっぱり営利団体でない、いろんな形のことを考えてはるからえらいなと思って。私は大将と同じように商売やっているから利益追求していく。そやけどただ、先ほど、私は役所の方がもの言っているのかなと思った。だから今回このパンフレットを取り上げて、京都・奈良といったら古い考えのパンフレットやなと思った。すんません。

(司会)

はい、率直なご意見をありがとうございました。

あと、ほかに何かございますか。

はい、どうぞ。

(市民審査員)

僕は多分この審査員の方の中では多分若いほうの年齢なると思うんですけど、よく奈良なんかに行くと奈良町とか、特に何があるっていうふうに私自身は感じないんですけど、時々行くとすごい活気にあふれて人が多いと思うんです。京都なんかも同じように、大きなメインとなるような建物等がありますけど、でもそれなりにたくさん人がおられるのには多分何かしら魅力や理由が必ずどこかにはあるはずやと思うので、そういったものを何か若年層をターゲットにできるようなヒントになる部分があるような気がするんで、そのあたりのマーケティング実施していただいて参考にして、さっきの資料にありましたような50代以上の方ばかりが来る町っていうイメージを払拭できるものがあれば、また一つ今後の改善の方向性につながるかと思しますので、そのあたりもまたぜひよろしくお願いします。

(司会)

はい、ありがとうございます。

あと、はい。

(市民審査員)

今年、伊勢神宮の式年遷宮が10月にありますけど、伊勢神宮を中心に水面下では若い子が伊勢神宮を参拝したりとか、それにまつわって全国のいろんな氏神様へちょっと行ってみようかなって言って、自分の自家用車で行ってみたり、電車でプチ旅行したりという子を割と耳にするんですね。それで堺にちょっと寄ってみてすごい神社もいっぱいあるし、わからないけどって言って回ってる中で、余りにも堺は民家と神社とかいろんなものも世界遺産と密着し過ぎて、奈良とか伊勢神宮のその住人の方たちの意識っていうのがちょっと観光客相手じゃないですけど、住人の方自体が割とお客様相手じゃない、そんなふう思うのは自分だけかなと思うんですけど、もうちょっと市民も堺のこれにもうちょっと携わってレベル意識を上げていくことも必要なと思いますし、各神社で立派な神社があるんですけども、その神社関係の方々とし役所の方々と旅行会社の方々との連携っていうのはされてるんでしょうか。

(所管課)

実際の観光客の受け入れなんかでも神社、お寺の皆さんにも御協力もいただいておりますし、例えば非常にたくさん訪れていただいております南宗寺さんでありますとか妙国寺さんなんかには観光コンベンション協会のほうからずっと観光ボランティアガイドで観光客の方に御案内をするようなスタッフの配置も行っております。

(司会)

はい、ありがとうございました。審査の結果が出ておりますので、そちらのほうの御紹介をさせていただきますと思います。

今後の方向性	事業の方向性	拡充	1	2(2)	2(1)
		現状維持	3	6(1)	
		縮小	4(1)		
		廃止			
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
		公金投入の方向性			

左:市民審査員 (右:検討委員)

この表の見方、午前中と同じでございますが、黄色の付箋に張ってある数字が市民審査員の方の数字で、赤いものが参考までに御提示しております検討委員のほうの数字でございます。その表の横軸っていいですか横側が、公金等による税金を今以上に入れていくのか、公金予算をもっとつけるのかどうかということについての御判断で、縦の方向は、この事業をより拡充するのか縮小するのか現状維持のままでいいのか、あるいは廃止をするのかという御判断でございます。

縦のほうから見ていきます。事業の方向性、拡充というのを審査員の方だけ読みますけれども、横にいたしますと、拡充が5件、現状維持が9件で、縮小が4件ということで、現状維持が一番多くて、やや拡充のほうが多いんですけども、拡充と縮小というのがほぼ同じぐらいの数、ですから現状維持からやや拡充という方向で、かなり事業をするかどうかという点については肯定的な御評価をいただいているんじゃないかなというふうに読み取れます。

次、横軸のほうなんですけれども、これも拡大が2で、現状維持が8で、縮小が8っていうことでございますので、これは現状維持と縮小が同数で、しかも8件っていうかなり大きなところがございます。ただゼロにしろという、その意見はございません。拡大というのも2件あるということなんですけれども、予算的にはむしろ今のままか、あるいはもっと小さな予算でこの事業をしたらどうかという御判断ではないかなというふうに今読み取れます。

今回の議論、私なりの整理をさせていただきますと、この事業に関しては効果をきちんと検証して、今のままで本当に要るのかどうかという、そこが一つの論点だったと思うんですけども、午前中の議論と違って、これを廃止しろとかゼロという意見がないというのは、これは一つの注目すべきポイントで、まだ要るんだと。これが今なくなると困るんだという御説明が市のほうからありましたけれども、そここのところはそれとおりでであるというふうに評価されたん

ではないかなと思います。今やめたらやはりまだ早いんじゃないかと。ただそういう意味で、事業は今のままか、あるいはやや拡大する方向で進めていくべきなんだけれども、お金についてはもう少し事業効果精査して、今2分の1の補助になってるんですけども、その補助率について考えると、あるいは今対象にしているバス以外のものを考えるか、そんな多分いろんな選択肢が議論の中にはあったと思うんですけども、もう少し効率的なお金の使い方は工夫すべきだと。現状維持のままでもいいんですけども、できるんだったらそれを少し減らす方向で少し効率化したらどうかと。そういう御判断かなと思います。ただ細かいニュアンスについては、自由意見の中でしっかり書いていただいているかと思いますが、そういったところをよく事務局のほうで精査していただきたいのと、この場の検討委員さんからの意見では結構具体的な、このバスの補助金以外に何をしたらいいのかというのが出ておまして、既にやっておられるというのもあるんですけども、もっとやったらどうか、進めたらどうかという方向で御参考にしていただければなというふうに感じるところでございます。

ちなみに検討委員の方の赤いもので見ると、全体に数が限られてるんですけども、事業の方向性は拡大というのが3件ですし、公金投入というのは現状維持というのが3件ですので、これも同じように公金投入については今のままより出す必要は余りないかもわからないけども、もう少し仕事としては拡大して、もう少し軌道に乗るまで、そちらの堺市さんの説明によればほかの観光魅力が十分にほかのライバル都市なんかには負けないぐらいまで磨き上がるまで、もう少しこの事業を通じて事業は拡大していったというふうに読み取れるような気がいたします。雑駁な整理でございますし、ちょっと私の主観が入ってしまってるかもわかりませんが、あともう一つ、文中もそうでしたけれども、こういう事業については民間の旅行会社の方とかも当然やっておられて、市でも民間の方、マンパワーとかノウハウを入れられてやっておられるわけなんですけれども、やはり事業の性質として民間はもう本当に競争の中でお客さん連れて来なければ困るようなそういう危機感の中でお仕事をしておられる中で、行政のほうはそういう危機感があってもそれがなかなか目に見えないですし、そういう意味で市民の方から本当にちゃんとやっているとということが、民間の方以上にそれで示していく必要があるかと思いますが、そこら辺のところも貴重な御意見がいただけたんじゃないかと思いますが、ひとつよろしく願いいたします。

あと最後に何か一言ってということ、もしもありましたら。

なければ、少し時間余っておりますが、堺観光周遊バス助成制度の審査、これで終了させていただきます。どうもありがとうございました。